

廣益俗說辨十

佛家艸木畜獸
魚蟲引用書目

13
954
11

廣益俗說辯卷二十目錄

雜類

○佛家

續佛像イナと彩色サイシキと狀イナ說

訂補

同 石佛ヒウスルアヒラ生汗說

訂補

同 佛像光モノイフと發ハツち言語說

訂補

同 佛ユカニと石小畫ユカニ附 石小文字ユカニと書說

訂補

同 名山ミナトと玉タマと佛乃出現ミツケルと狀イナと狀イナ說

訂補

同 佛舍利ミナリ乃說

訂補

同 百度ヒヤク參詣サンギ代說

門 佛
號 954
卷 11

同 妙見菩薩乃說 訂補

同 古乃僧イニベ乃奇特エトク乃說

補 古乃僧ソノカ蚊フウ之封フウ乃說

補 古乃僧エウ乃エウ畫エウ乃說

續 現在地獄ケニサイ乃說 附 龍燈湯泉 訂補

同 地獄ユキミ乃說

同 住持キウギ乃說

同 極重惡人コウキウ乃說

○草木

補 木乃伐キツ乃說

○畜獸

續 馬角ツ乃說 訂補

同 牛黃ゴウ乃說

同 拘寶イヌンタ乃說

○魚蟲

續 くハカイ貝乃說 訂補

俗況辨乃說

俗說辨引用書目

廣益俗說辨卷二十

雜類

井澤長秀 輯錄

佛家

續 佛像以彩色と俗流

俗流は佛ハ黄金に層をとり、彩は俗流に彩と云ふ

今按ふに尚書故實云佛像本胡夷朴陋人不生

敬今之藻繪彫刻自戴顯始顯嘗刻一像自隱帳

中聽人臧否隨而改之如是者積十年厥功方就

戴顯ハ晋代時の者なり 大智度論云天竺國熱身臭

故以香塗身 今佛像を黄に彩るハ 筆疇推談云或問浮

廣益俗說辨卷之二十

屠氏以身為旅泊何必殫費金朱華耀土木曰小
人性貪非窮奢極侈無以起其信心是為然也

考（糸魚）——此段訂補

續石佛生汗泥

俗流云在石山石地處方寸許汗生此地故小
汗元生此山也

今按石山括異志云夷陵有陰陽石陰石常潤陽
石常燥早則鞭陰石雨則鞭陽石皆應

晉書云北山有赤石白石以兩石相步則水潤

雜錄云堆峽有大石擊石水自石下已瘡編云
魏國公家一對鴛鴦硯並處則硯水自流天寶遺

事野客叢書云學士蘇轍有錦紋花石鑲為筆架
常置硯石之間每雨天飲雨此石架津出如汗

名臣言行錄云孫甫之孫甫之孫甫之孫甫之孫甫之
者硯石也此石在東門外水石價三十千

中石乃小孫甫也事人此一擔乃水石小也
之石乃小孫甫也事人此一擔乃水石小也

石乃小孫甫也事人此一擔乃水石小也
石乃小孫甫也事人此一擔乃水石小也

續佛像光線

俗流云一八人皆信公如公一八人皆信公如公

いふちと此代の強ひゆとてを束也フサよ及人不信也よ
からしゝ六か親君強も那イナシし中ふ

今按多^ニハ伏見ナリ申^スハ金根洞^{ヨウテン}石木^{セキキ}と
 云^フハ神佛^{シンブツ}ノ像^{ゾウ}然^ニニ^モ人倫^{リンリン}禽獸^{キンジュウ}ノ形^{カタ}と云^フ
 不^レトモ金^{キン}洞^{ドウ}石^{セキ}木^キハ^ニモ^モ言^フト^モ云^フト^モ其^モ性^{セイ}ナリ
 若^モモ^モ此^{コノ}ノ事^{コト}ワ^ハ妖^{ヨウ}怪^{クワイ}ナリ前漢書^{ゼンハンショ}云^フ昭公八年
 春石言^{モシフシニ}晋^{シン}平公問^ニ於^ニ師曠^{シキウ}對曰石不能言^シ神或憑^ハ
 焉^ニ左傳^{サセン}云^フ昭公八年石言^ニ于^ニ晋^{シン}魏榆^{エイユ}又^シ云^フ晋^{シン}劉曜^{リウヨウ}
 傳^{デン}石言^ニ於^ニ陝^{セシ}神代卷^{ゼンダイクワン}云^フ蘆原^{アシハラ}中^{ナカ}國^{クニ}者^ハ磐根^{イハネ}木^キ株^{サタ}草^{クサ}
 木^キ猶^{モトモト}能^レ言^フ語^ゴと云^フル事^{コト}ハ^ニ又^{モトモト}先^{マデ}代^{ダイ}ノカ^ニハ

二程全書小程明道先生京兆鄆陽は任せられ北南
山乃僧舎は石佛なり歳其首光と銘刻する一男一女
にまり視て昼寝する一より愛敬と云ふ者も其神を
相れて禁と云ふところ次先生よりめて死して其
僧哉なり一よりいふ石佛なり一光沢現るといふ
は獲たりや僧養てよりより先生いふめて又光沢
現るは神なりと云ふなりと云ふなり一吾職事なり
はと云ふなり其首と云ふは神なりと云ふなり
是れハ神なりハ光沢現るなりと云ふなり皆神なり
と云ふなり是れハ神なりと云ふなりと云ふなり

補 系ありの畫彩代佛像貝紙襪一光紙襪の影をたてて
壁魚ニギハヤヒの和色と後色は月よ近づき光り

ふ正法キキの奇物かーと人の妖怪ヨウメイを此と孫ミナ孫ミナを人

此ソクは信シロ信シロのうらうらうの魚イサ一 此段小補

續 佛代石エカキの畫附石の文字と書説

信代シロのわね國ニギハヤヒの石小佛像と畫うけり是いりへ

わね僧佛像千枚をえり此ニギハヤヒは風吹ちてう

ちり此石ニギハヤヒは此のまうやうに又わねるう此河カハの石

文字と書うけり信代シロのわね僧經代文字代石と

石小石ニギハヤヒにて石のまうと

今按るは佛像及字と書くと是オウは祇イ祇イにわくと

草木子云龜尿可カク以スミ和墨寫字ウツシテ入石。貝原篤信

大和本草附録は信代載て日本わね昔佛經代

石は書其文字うけ脱ツケふけは法方りといふ今

そ名わね本朝食鑑云龜尿東之法置漆盆上明

鏡照之出ミタマシヅメ一説は蒼耳子油とて石に書紙とて文字を書る

仲ナカはれ粉粉乃末とて石に書紙とて文字を書る

續 名山はわねて佛代出現と稱う説

此段小補

信代云孫河の富士山おねの湯屋山とてよあふ

と此中にて佛代出現と稱うとわるといふ

と後るはこれとてうけ感カン意イわるといふ

色わぬ魚一因りわたりにわねをくくふふいせ
法之形一了了朱子語類云峨眉山有石號菩薩
石者如水精狀於日中照之便有圓光想是彼處
山中有一物日初出照見其影而映人影如佛影
耳峨眉山看佛以五更看本草綱目云寶石又曰
菩薩石曰放火石曰陰陽石石色瑩白明徹出喜
州峨眉山五臺巨盧岩竇間日中照之有五色
如佛頂圓光因名之酉陽雜俎云鏡石濟南郡有
方山山南有明鏡崖石成都
記云石鏡
瑩徹如鏡色わつ是等れきくひわふあやうり
かゝ此段小補

佛舍利乃現

俗同佛舍利と云て多ふをれね
今按ふに佛舍利ハ希少てあせをれ多し一也
二也事文類聚にわね佛西域に遊て佛牙銭得
ずりとて明宗に献し大石に志免ちしに趙鳳答
と云つてきく地一くふふ愈してさけさるやわ
る通鑑綱目は唐武宗に於て波羅門佛僧齒と
いひて人をわさびき一銭幣うらむふさるや
乃物とくくさるき思ふに是なりと云ふ一太史公
奏といふ者そふと呼て吾さく金剛石といふに性

學在作言觀卷之三

五

記て^{カク}
 羊角^{ヨウカク}
 子父^{コフ}
 又階唐嘉話
 又よもゝ出せり

本草綱目云金剛石出西番天竺諸國雖鐵椎擊

之亦不能傷アズ惟モロウ矜羊角扣オケハ之則ナニ灌然クニ氷泮ヒヤクニ番僧テ以

元佛牙是也
東坡物類相感志云羚羊角能碎佛牙爲人髮根可粘起舍利又云

獾齒骨極堅
 以刀斧椎鍛鐵
 皆碎落火亦不能燒

人得^テ之詐^{イハテ}充^{フル}佛^{ブツ}牙^ガ佛^{ブツ}骨^{コツ}以^ニ誑^{サバフ}俚^リ俗^{ソク}時^{トキ}珍^{チン}曰^ク世^セ傳^{デン}於^ニ

羊角能碎^ク金剛石^ニ即此物相畏耳又云人患^ニ石淋

有石塊刀斧不能破人專心生癖有病癥塊凝結

爲石牛黃拘寶鮮荅皆獸之病也沙淋石淋舍

子皆精氣之凝結也。考如魚一。霏雪錄云：如試舍利。

子_三童男_上女_上髮根
可引緩髮_上也

此段小補

續
百度
系諸乃從

俗間も百度乃と云ふと云ふ

今按予_一中_二例_三塾_四錄_五云_六鄱_七陽_八何_九梅_{一〇}谷_{一一}儒_{一二}學_{一三}と_{一四}云

以て之を事ふ者なりを妻年老て佛と云ふ

目下親膏代名号子遍とある梅岩他乃そり

我々地てとびと色や才知れ月梅若急小畫

とよふと再之よおふ書いふてなんそさうく

神仙傳云 拾芥抄云妙見寺在王城四方日本長安

國安宿郡信夫原寺者妙見菩薩元云河内 公事根源云妙

見ハ後朱雀帝長曆年中宇治園白小作命冬 而

小所形有ううさゆーーと其理わふ小

ふ山多所詳とねー是等所説ふ山て是

是ハ妙見ハ異域の人ありて我朝此祓井イキふわ

と多んそま号成用じや是れふわふ不祓キウゴウ

毘沙門摩利支天ハ神と是くまふわふヒサ

抄ツタチ——此段訂補

續 古代傳ふと奇特わふと云云

信託云ふ人ハ佛を佛菩薩の化身フツホたりて教に傳

のりて地を觀ケミ——老尸成るから新と恐ヤ——死シを

もの成るはりて藕コウ居る水と云ふと免奇

特不思議此とねねシキ——来代キはいまうてハハ新傳云

——佛法裏微乃云々スイ——たらしむ

今接ふと趣て佛法めをわく——来キ後キ成キ續キ介

たれぬハ大藏一覽めを世々終下生乃ツクシ下手指サシ

天一手指地周行七步目顧四方云天上天下唯

我獨尊雲門云我當初若見一棒ホウ并殺與コロシテ狗子喫シ

貴要天下太平キヨとわく 若佛法ニよ奇特キわくはた

程よりわすしやと少いあふふと此もあふふれと
わすれかた者とさういふやうな古の佛法とていふハ
いふ事ともむさうと信作してさうかふと此か
今ハ世文明となり奇異なることハ新幻術と
いふ一む教信等も用ひてさう信じてさうかふと
いふさういふやうな信もさういふやうな今此信
わすれと此よりわすれ佛法よりいふやうな義徴あり
さうして繁昌とてさういふなり

補

古の僧教と封を信託

信託とわす國乃農民の家内の一門は教を託さる

わすれハむしわす信託の家一屋よりけぬと此教
次封一も信託よりわすれさういふなり

今接ぎよは是大地の陰陽暖冷よりいふ教を託す

と信託一宇宙代廣博なるさういふ事多し

陰陽國鴻後海部郡森つ葛田といふところの畔を

庭よりいふ蛙かゝぬなり

那依契國より白浪里漢といふなり其石をいふと

まどちとて白浪とていふ繩とむけぬとて

安藝國より佐東新庄といふ村なり佐東ハ小新

庄ハ南方よりさういふは桃乃木と極より佐東の

書金谷院集卷之三

俗説云佐治乃溪間山越中代立山紀亦代溫泉岳肥
後代阿蘇山薩摩代霧後岳ハ現在代地獄なりと云
故に煙々地火が湯涌罪ゆと云代ハ此なりと云
と云と云

今按ふに氷の神異經云南荒外有火山晝夜
火燃暴風不增猛雨不滅瑯邪代醉篇云西海西
有浮玉山山下有穴穴中有火其色如水波濤灌
蕩而光不滅名曰陰火又云韶州府城東南五十
里有湯泉能熟生物泉中時見赤魚游泳補文選
註云蜀都有火井中常自出火貝原氏云溫泉有

元朝又極てありき泉と云大湯湯なり俗人ハ地獄と云越中の
立山肥前代等名日向乃霧又云此ハ地獄也此ハ地獄なりと云
あり山と云阿蘇山越河の中ニ此ハ四方地獄
ト云此ハ地獄なりと云溫泉ハ此なりと云
出足彌山去高昌八百里有石硫黃數十文縱黃
五六十畝有取硫黃晝視孔中上狀如烟而高數
尺夜視皆如燈光明高尺餘本草云盤國有火山
山旁皆焦溶流數十里乃凝堅即石硫黃貝原氏
云信列
後云岳越中代立山越中代立山紀亦代溫泉岳肥
霧後岳ハ現在代地獄なりと云
故に煙々地火が湯涌罪ゆと云代ハ此なりと云
と云と云
有砒石處亦有湯泉浴之有毒按列云溫泉有砒石
五雜俎云溫泉之發源其下必有朱砂或硫黃礬

石蓋天地至陽之精所結也聞中諸泉皆作硫黃
氣其甚者熏人不可耐人有疥者浴之輒愈
溫泉代醉篇云升菴云水經註火山似水從地
中出名曰焚臺今南中徃々有之火井在蜀之臨
邛今嘉定犍為有之其泉皆油熱之則然人取為
燈燭我後因與水村人共油
天智帝御幸七年秋西遊幸此泉之代獻之
貝東氏云石炭目下少也
石炭漢地理志臨邛章部出石可燒為炭
陰火曰木玄虛海賦陰火潛然按見于初不知其
說後見嶺南異物志海中水遇陰晦波如然火滿

海以物擊之迸散如星火有月不復見意玄虛指
此耳肥後八代郡不知火者時珍云海
中陽煙如火焰起於水面廿二海東諸國記云
日本下野國有火井產硫黃ト世國宮八幡社
而雷氣氣是等と考へ多信託乃相違歟訂補
續地勝載云
信託云人死して人れもの地獄れと云はるる
わまハ儒士乃我々地るにりもりわまなり
今按るより佛地獄臨也

さうめ無狀憊人との方便なる故に就人より
老害にありと云ひてあはれに怖る者故に
之を地獄極と云ふ一重の人も惑へるなり
まうく此のとき人ハ眼疾と云ふる者中一ハ
死後人より一因なる一倍なり堂と云ふ
やて生物故に云ふ所も人より一重階
下に蟻あり一重の故に今ゆへハ蟻より一
はひひより一重の地獄は極なりと云ふなり
ゆへ一重の地獄實司より一重の地獄は極
なりと見事なる所にて一且と云ふて階下と云ふ

小蟻中より一重の故に云ふなり
神佛の思ふなりと云ふなり
以南人不夢馳北人不夢象と云ふなり
といふ人より一重の世俗初より地獄なり
すてなりと云ふなり
憊より一重の故に云ふなり

續 位持と云ふ

俗より一重の故に云ふ

今按ふ。山居難縁は位持者住一切菩薩等不
何境護持諸佛之正法輪不謂佛子位持とわれ

假使と八思とてふふえぬとてやかり

續 極重悪人との説

俗より俗等とていふ極重悪人とは此方便唯
稱深危得生極樂と雖もわきまを以て修し戒法
とききしめし難行なり惡癪乃凡走ハ字又修しハ
たうとて放也其此方便とて一念れ念佛由て
極重とていふとて極重とていふとてなり

慈氏云け文ハ以て惡行なりゆきものなり
故ハかきなりとて惡ハ人々惡行なり不義と
あじ良知わきハ惡人盜賊なりといはれてハ一

令彼を捨るもれなりとて我もとて此ハ惡行なり
うとてなりゆきなりとて惡行なり又極重
惡人乃文ハ極重なりとて偏なりとて翻譯ハ
又字とわきめられや又惡人とのなり又力つ孫
の人はとて此惡行なりわき地とわき人なり
倒一己とていふとていふとていふハ念佛題目
とて此惡行なりとて我信とていふとていふ佛
みつ極重惡人ハ惡行なりとていふとていふ
世ハ惡行なりとていふとていふ人中人中
く大惡とていふとていふとていふ家昧れ者ハ

乃理といひまうせても得公せ給ハせめて念仏より
印代方便ありと云ふことかたし—— 日本水土解

草木

補

本哉伐てまうと何れに

後ろよ古木を伐りてまうとにわんこといふ
者あり

今按ふに蒙昧なる者人よりに樹と荒神杜神
竹林神などといひおぼろなる荒神は妖物と樹は
妖怪——て愚盲なる者樹とけりてまうとをば
まうと伐たんとて思ふまうと朱子格類云わんこい

ちくといふはまうとといふ者あり死して厲となら

曲折しそ祭祀佛事わんこといふは人れた

わんこ饅具哉そわんこ若かりてくせされハ餅食

とくわんこまうと子後より人わりて爆杖日本あてに

とまうとちて其下依り樹とくこれよりまうと後

てやとねと朱子曰是他狂死乃氣いふと教せに

爆杖ラセカ小器——教せらるゝとわんこけまうとひたり

み伏て薪といふ——

畜獸

續

馬角乃怪

俗説云其角ハオウウノ如クト云

今按云史記云文帝十二年有馬生角於吳漢

京房易傳云臣易上政不順厥妖馬生角又前漢書

呂氏春秋云人君失道馬有生角又云

凡ハオウウノト云人オウ物中ニオウノハ 此段訂補

續 牛黃乃説

俗説云牛黃ハオウノヲ云ト云

今按云酉陽雜俎云牛黃在膽中牛有黃者吐

或弄之輟時錄云鮮答乃走獸腹中所產獨牛馬

者最妙恐亦是牛黃拘寶之屬耳本草綱目云牛

之黃牛之病也故有黃之牛多病而易死諸獸皆

有黃者亦然ト云ハオウノト云ト云ト云ト云

續 拘寶乃説

俗説云拘寶ハオウノノ如クト云

今按云本草に拘寶生癩狗腹中狀如白石似

石非石其重如石而包膜絡之ト云ハオウノト云

人オウ物ト云ハオウノノ拘寶説又同

魚蟲

續 不食貝代説

俗説云其貝代國ト云ハオウノノ貝代石ト云ハオウノノ

毛ハビウ一わ子倍ハ浦人貝と云々来ア一と云ハ
み人なるハぬ貝なりと云々生れハぬ杞事にハ
刻一きりける故キ化まら石よなりと云

今按るハ本草綱目云石魚出湘山縣石魚山金
臺紀聞云郿縣河灘上有亂石中有石魚長可二
三寸天然鱗鬣或雙或隻不等本草綱目云石蟹
生南海是尋常蟹年月深久水沫相著因化成石
三才圖會云石蟹出南海今嶺南近海州郡皆有之
海槎餘錄云石蟹桂海虞衡志云石蟹生海南形
生崖之榆林港
真是蟹海沫所化又有石蝦亦其類也終ハ海沫也

化して石蟹となす是類と記する朱子此後云云
小螺蚌殻或石中よ生してある然見然成石と云
ち舊月れ去螺蚌なり則ち中此物爰して云々
なり柔なる物爰して剛なりと石魚石蟹も云
あらんうかたきくひわさ右れくは貝も貝れ
石よなり云々云々一云依固安縣唐溪村よ
貝に似る云々云々
村の山よ貝母似る云々石なり是等もたつ天地の
とれたの貝なる人一云々一む云々云々 け辰訂補

補

俗説辨り説

或云予世に於てこそ新に於て新書を見たりと云ふ
 ひる新紙は来由を記しわづかに新に於ての理と述
 べる今吾子にわづかに新に於ての理と述べる新
 及れど然るに於てこそ新に於ての人物に於ての論
 事と云ふ人は玉に相す一之薰蕕と云ふことぬふ
 新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 わづかに新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 られて民に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 近世に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 ありと云ふことぬふ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新

わづかに新に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 海に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 物に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 と云ふ人物に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 補に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 見たりと云ふ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 古に於てこそ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 うと云ふ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 わづかに新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新
 ありと云ふ新に於ての理と述べる新に於ての理と述べる新

移ふ處死より死事とせしめられしめてわく
死と雖も一と一子ハ他乃若紙にやハ己の惡紙わ
やとと此道釋なる人。或云けり信託希れ
まりと正と車輪抄とりよの樣抄とりとままり
吾子と紙紙人等や 答云いすて此見と希と
より生質惡處たりと云々是は紙よわや此と若
子とのわきハより此の事紙抄人わき
則ゆとてならん已とて是と一他とて非と
子れらる紙一是吾子信託はまらる方り信託希
なりと此と希の義見れりて識者此目はゆきされハ

わやまわるところを人知とせしめては紙わき
紙とるものわきハ希の義見れりてはまらる方り信託希
退くれらる希昨武に信託乃書釋は尋紙とて
紙は車輪抄とりよ書か。或云は他乃若紙にや
希と一但一紙とて紙一てわき一紙とての希
や今いふまゝりて見ふとわき一とて入てまらる方り
やとわきと希か。かせらハ希一かはの希と希
わきと希と希と希とわきハ希と希と希と希と
是なりふまゝりては紙わきと希と希と希と希と
は希と希と希と希と希と希と希と希と希と

いふれかゝ一思ふよと古漁乃上子わろと祭て非と
あひとやとわのけきろふれかゝんとわろつゝと答云右ふ不
謂摩訶刹羅大黒天神の南海寄歸傳佛祖通載等不
れとふわろり俗俗釋よ大己貴と大田と一太黒に因と
ふとふるゑ加那大黒夷子紀向井氏神社秘藏等ふれ
と説ふわろり我朝乃大己貴神と天竺れ大黒天神と名に
かゝるといふも非佛正形等と異なりふれのとにわろり
大目といひて大日靈と混一と字誤非ともいふ字誤所
混と混とあまゝいひにやゝ一とと人ハむれいすといふと
とれと混とあひ死氣乃いすこ屠らふとふとの誤と
と

月乃月哉初と一車れ轉と一初と一と名同く一と
実乃乃初ととあ後いひやゝ一と大黒天神ハ山方水と祭
すゑ後附合なりと接かゝ一と夷子れ形貌等とと
此持衣とと後とと非代は有とと此後なりととと
此なり非代乃諸神等ハ何とととれい何とととと
一と此書籍もかまれハ後とといふりて非像とといふ
者己の公よゆとととと一とと佛像ととととと
とととととととととととととととととととととと
ひたり又上右漁乃上子とととととととととととと
新波漁人乃とととととととととととととととととと

乃論之云々

○以爲人同て云々一書云舊事本紀曰三輪大神曰吾和魂神牛
頭大神從從古來悉事大地と記して牛頭天を以て稱し人俗
悦辨みと見えと遠隔なり云云右の舊事本紀より云々舊
事大成なり中葉様と録じと云々色偽書なり教板と彼を
つて予に代なり採りとりと遠隔なり云々○わろ人同て云々
一書に漢俗悦辨云々荒神の從なり日如めて電神と宝荒
神と云々軒遇突智神なり母神焦もて化去と云々暴惡
乃云々用ひて荒神と云々伊勢縣多知と後て軒遇突智神
て二股と云々云々云々電珠なり於三角なり易此卦也難ハ

且舊の云々と象の火なり電珠の上より三つ火なりと云々
電珠なりと云々云々云々荒神と云々云々云々云々
云々續從悦辨云々奥津云々奥津媛と電神と云々舊事本紀
正統なり右に一書云軒遇突智神電神と寶荒神と云々ハ
從神書正史等より云々云々此從なり又易此卦の難ハ
一寶珠なりと云々火なりと云々云々附合なり又軒遇突
智神と焦もて云々暴惡なり云々用ひて荒神と云々云々
一荒神の二字諸神書より云々見く云々伊勢縣多知軒
遇突智と焦もて化去と云々云々云々度會延佳神と云々
特並る見焦而化去と云々二氣消息と云々云々伊勢縣多知

非日月一陰中一陰十月月うんたり冬冬一陽來復
 一陰退地始一陰中一陰退地四月純陽の事は
 いまうて陽火うんめい陰火絶と云ふ此大非軒遇寒智
 而生るゝいふて母係特並さやれん化去といふたうへーやわ
 成者へとるへー〇何う人同云一書は續信統辨は醫昨此藥
 師佛と信とる此なりと有ハ張なり醫昨人を生と佛とれ
 こゝの者おれハ生氣と念とるゝめと藥師ハ東方發生此木乳
 なる此をいふて佛書と破とる此やめて理といふて佛を
 多へーやわりのびる人を生ハ佛とねとあると云て寂滅と
 樂とせれ佛ハ生れと念とるゝいふて言ハるゝ相違を因

思ふにびう一帝と猶或或漸くもれわ其猶の堅地とめて物
 と成るといふ又帝は利地とめて物なりてと成るといふと
 帝なりてと成るといふと帝は猶地とていふといふと
 と成るといふと帝と韓地は見えたり佛は面と成るといふと
 粗似たり又佛書破と云ふと佛と見えたりと云ふも此
 たり是佛は信して神儒とて佛は私言なり帝は佛と擲ハ天照
 大神此屏佛法息とれ非初と云ふハ孔孟の其場成るをけし
 佛老と非とて教戒と云ふすもれ言たり非儒と佛との心
 白れわ地やと成るといふれも其私と云ふよりて非儒ハ佛
 云とびう魯ハ人なりと云て商賈といふ人を思ふてと云

是より南出ハワノ子に多ク其より南出ハワノ子に多ク
 うるう海とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 多クとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 多クとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 俗に贅辯と號とて書わく誰人か他方より答云くそ作を
 多クと論とて本を佳たり用ひ給ふ也一〇或同云是下ハ俗に
 辨とて廣益の多クとてとてとてとてとてとてとてとて
 俗に多拂ハハとて有うとてとてとてとてとてとてとて
 や他日考得る多クとてとてとてとてとてとてとてとて
 著る一

廣益俗說辨引用書目 不拘次第

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 日本紀 | 日本紀纂疏 <small>一條兼良</small> | 釋日本紀 <small>卜部兼治</small> |
| 日本紀私記 | 舊事紀 | 同敎龜頭 <small>出口延佳</small> |
| 古事記 | 同敎龜頭 <small>出口延佳</small> | 續日本紀 |
| 日本後紀 | 續日本後紀 | 文德實錄 |
| 三代實錄 | 古語拾遺 <small>齋部廣道</small> | 同句解 <small>藤原齊延</small> |
| 類聚國史 <small>菅丞相</small> | 扶桑畧記 | 歷代皇紀 |
| 歷代編年集成 | 本朝編年錄 <small>林羅山翁</small> | 水鏡 <small>中山忠親</small> |
| 大鏡 <small>一号世繼物語 清原良業</small> | 榮花物語 <small>赤澤衛門</small> | 續世繼 <small>一号今鏡</small> |
| 增鏡 <small>又号弥世繼 一条冬良</small> | 神皇正統記 <small>北畠親房</small> | 王代一覽 <small>林向陽子</small> |

倭姬世紀 一號太神
宮本紀

鎮座傳紀 一號太田
傳紀

鎮座本紀 一號飛鳥
本紀

鎮座次第記 一號河波
羅波記

鎮座本緣

寶基本紀

神名秘書

類聚神祇本源

神皇實錄

二所太神宮儀式帳

二所太神宮殿金考證 出
崔

太神宮例文

神宮雜例集

神宮雜事

伊勢勅使部類記

皇字沙汰文

伊佐波登美神考證 出
崔

文保記

小朝熊神鏡沙汰文

長寬勘文

古老口實傳

元々集 北畠親房

豐葦原卜定記

國郡卜定記 卜部兼俱

遷幸要畧 出口延佳

遷宮次第記 出口延佳

神名畧記 出口延佳

神宮秘傳問答 出口延佳

同續秘傳問答 同

陽復記 出口延佳

同頭書 出口延佳

太神宮或問 出口
延佳

神事隨筆 出口延佳

神代卷口次 忌部
正通

同東家秘傳 北畠
親房

同直指

同講述 出口延佳

同私說 白井宗因

中臣後瑞穗抄 出口延佳

同白雲抄 白井宗因

色弗口次

延喜式

神名帳頭書

神祇令義解

大和本記

神祇編

神祇正宗

神祇拾遺

神社考 羅山翁

神社啓蒙 白井宗因

神社便覽

神皇系圖

諸神本系

諸社志

諸社根元記

諸神社本緣起

九一社記 北畠親房

九一社本緣

九二社註記

神異記

八幡本紀 見原好古

賀茂皇太神宮祭記

同註進畧記

天蒲宮故實 見原篤信

三輪考 出口延佳

藤森弓兵政所記 山崎金加

垂加社語 同

日本一宮記

阿蘇宮記 自述

阿蘇緣起

速吸日女社記 自述

嚴嶋道芝記

富士緣起

大黑夷子記 山崎金加

三種神器解

三社託宣抄

六根清淨校抄

八幡愚童訓

神道名目

隱顯集

神道大義

神道肝要

故實問答 阿蘇太官司

麗氣記 弘法

神道深秘

習合神道記

琉球神道記

公事根源 一條兼良

同集釋 松下見林

政事要畧

江家次第 大江匡房

弘仁私記

職負令集解

職原抄 北畠親房

同句解 白井宗因

同大全 植木氏

同纂註

百寮訓要抄 二條良基

禁秘抄

弘安禮節

官職考

官位問答

女官志

女官考 甲原職忠

裝束祕抄

名目抄

公卿補任

姓氏錄 茨田親王

尊卑分脉

大系圖

紹運錄

正統錄

知譜拙記

著聞集 橘季茂

宇治拾遺 原隆國

今昔物語 同

十訓抄 菅原為長

古事談

續古事談

江談抄 大江匡房

東齋隨筆

一條兼良

愚管抄

慈鎮智高

康富日記

中原

大江佐國元永元年記

園大曆記

卜世繼

徒然草

野槌

林羅山翁

寢覺記

一條兼良

兩聖記

藤原長親

海人藻芥

惠命院僧正

本朝遯史

本朝學原

松下見林

將軍家譜

林羅山子

異稱日本傳

松下見林

前王廟陵記

同

國朝佳節錄

同

日本歲時記

貝原好古

本朝改元考

山崎敬義

本朝蒙求

謠草

貝原好古

和漢事始

同

點例

貝原益軒

東見記

人見卜幽

本朝畫家傳

同畧史

同通記

永井氏

比賣鑑

中村湯齋

日本水土解

熊澤氏

大和小學

山崎闇齋

改曆雜事

卮言抄

林文敏翁

旅宿問答

詞不可極

雜々拾遺

藤翁

拾芥抄

和漢名數

貝原益軒

同續

同

鍛冶譜

日本長曆

和漢合運

蕉了子史記抄

和名類聚鈔

源順

下學抄

和爾雅

貝原好古

日本釋名

貝原篤信

大和本草

同

同附錄

同

多識編

羅山子

庖厨和名本草

本朝食鑑

人見正竹

人曆勘文

田村曆傳

齋藤實盛傳

佐藤竹塢

疎魯理傳

佐々宗淳

本朝文粹

藤原明衡

續本朝文粹

朝野群載

菅家文草

同後集

性靈集 空海

東海一漚集 圓月

絕海錄

蕉堅稿 絕海

瓊華集

曉風集

和漢朗詠集 公在

惺窩文集

南浦文集 文之

羅山文集

活所遺稿 那波道圖

膾餘雜錄 永田道慶

瞽搜集 澤庵

垂加草 山崎重加

文會筆錄 同

自娛集 貝原篤信

慎思錄 貝原益軒

儼然集 森尚謙

玉造小町 俗曰弘法作非

集義外書 熊澤氏

萬葉集

同拾穗抄 北村季吟

古今集

同抄

後撰集

同抄

金葉集

詞花集

千載集

新古今集

續古今集

玉葉集

風雅集

新拾遺集

新後拾遺集

新葉集

新撰六帖

夫木集

藻鹽草

八雲御抄

人丸家集

菅家御集

小町家集

和泉式部家集

紫式部家集

貫之家集

行平家集

周防內侍家集

赤染衛門家集

檜垣女家集

忠度家集

山家集 西行家集

李花集 宗良親王家集

慕京集 太田道灌詠草

年中行事歌合

百人一首抄

六家抄註

神道百首和歌 一歌

艷詞 冷泉隆房

大名寄

松葉集

續松葉集

空穗物語

竹取物語

大和物語 花山法皇

同抄

源氏物語 紫式部

同抄

同河海抄 一條兼良

同花鳥餘情 聖善成

同岷江入楚 中院

同雲隱

狹衣 大貳三位

同下紐

伊勢物語

同抄

枕草子 清少納言

同春曙抄 季吟

清輔與儀抄

同袋草子

四季物語 鴨長明

同異本

無名抄 鴨長明

同續

玉傳深祕

袖中抄

祕中抄 宗祇

徹書記物語

清巖茶話

和歌祕講

戴恩記 一平歌林雜話
松永貞德

土佐日記 紀貫之

同抄 季吟

長明海道記

同道記

道行觸 今川了俊

伊勢參詣記 坂土佛

同頭書 出口延佳

詞林意行集 宮川氏

西國船路記

白水即紀行

出雲風土記

豐後風土記

雍州府志 黑川道祐

山城名勝志 大嶋武好

山城名所追考

攝陽群談 岡田氏

泉州志 石橋氏

堺鑑

大和名所記 一平大和
幽考

大和廻記 貝原氏

南都名所記

奈良鑑 一名八重
櫻

勢陽雜記

伊勢名所拾遺

伊賀溫故

紀州名勝志

近江畧記

鎌倉志 力石氏

常陸國誌 常陽

會津風土記 山崎氏

筑前續風土記 貝原氏

筑前名寄 同

肥後地志畧 自述

丹後地志

隱岐視聽合記 藤井氏

江戸名所記

四國記

讚州畧記

東海道名所記

熱海地志 鈴木氏

熱海名所記

士峯錄 菅高

蝦夷文談 等野

名所方角 宗氏

秋田城記 木村氏

壹碑銘

信夫摺記 向氏

有馬名所記

佐賀閑記

諸國故事因緣

日本事蹟考

日本奇跡考

國名風土記

將門記

陸奥話記

奥州後三年合戰記

保元物語

同參考 今井氏 内藤氏

平治物語

同參考 今井氏 内藤氏

平家物語 信濃前司 行長

同異本

源平盛衰記

東鑑 同脫漏

義經記

曾我記 伊東氏作

北條九代記

南朝記

太平記

同參考 今井氏 内藤氏

承久記

明德記

應仁記

同重編

菊池記 自述

鎌倉九代記

後太平記 南氏

續太平記 杉岸氏

西國太平記 橋氏

九州治亂記

豐筑亂記

大友興廢記 杉谷氏

同始末記

櫟樟記 豫州河野 家乘

江源武鑑

蒲生四代記

會津四家合考 向井氏

新編東國記 興雲子

佐々傳記 自述

結城軍談

同戰場別記

武者物語 松田氏

同抄 同

北條五代記 三浦氏

相馬百官 世言平將門定

元亨釋書 虎關

同抄

聖德太子傳 平氏

同抄

同備考

日本靈異記 景戒

日本靈應記

日本僧傳

名僧行錄

撰集抄 西行

閑居友 慈鎮和尚記

發心集 長明

寶物集 平康賴但畧本

廣寶物集 同

方丈記 長明

砂石集 無住

雜談集 無住

三國傳記

百因緣集

磧礫集

堪囊鈔

弘法傳記

弘法大師遊方記

承和太政官符

真言傳

扶桑隱逸傳 元政

秘藏記 弘法

地藏秘記

放生由來記

日待月待庚申待由來

妙見緣起

簠簋內傳 世言晴明作非也

同抄 附阿部晴明傳

大和惟異記 興愛子

三教和抄

四書大全

五經大全

十二經註疏

易傳 漢京房

性理大全

春秋元氏傳

東萊博議

二程全書

朱子語類

史記

前漢書

後漢書

晉書

隋書

北史

唐書

新唐書

宋史

皇明通紀

明季編年

明政統總

資治通鑑綱目

綱鑑大全

東國通鑑

國語

戰國策

宋名臣言行錄

世說新語補

聊邪代醉編

唐才子傳

補筆談

開元遺事

天寶遺事

太平廣記

華陽國志

呂氏春秋

論衡

白虎通

風俗通

世法錄

隋唐嘉話

劉賓客嘉話錄

薛方山紀述

三才圖會

博物志

續博物志

筆疇

樵談

霏雪錄

蟹譜

顏氏家訓

圖書編

大明一統志

廣輿記

古今原始

事物紀原

事文類聚

吳地記

北戶錄

南海古蹟記

南唐近事

中洲野錄

西樵塾記

岳陽風土記

桂海虞衡志

成都記

尚書故實

野客叢書

杜祐通典

杜陽雜編

異端辨正

鬼神論

群玉韻府

新序

輟耕錄

海東諸國記

海錄雜事

登壇必究

諸史品節

月令廣義

書言故事

焦氏筆乘

聞見雜錄

玉匣記

中華古今注

希通錄

祛疑說

拊掌錄

庚己編

己癩編

物類相感志

卓氏藻林

海槎餘錄

不求人

又号格物全書

金臺紀聞

群碎錄

玄中記

酉陽雜俎

五雜俎

神異經

括異志

異苑

虎苑

六韜

白猿傳

山海經

山海經圖贊

續齊諧記

神仙傳

列仙傳

搜神記

續搜神記

遵生八牋

解夢全書

北夢瑣言

小窗別記

居家必用

莊子

列子

淮南子

抱朴子

韓非子

草木子

太上感應編

感應編纂註

神相全編

文選六臣註

古詩歸

唐詩解

唐詩訓解

楚辭

文苑英華

白氏文集

韓昌黎集

柳河東集

李太白詩集

東坡詩集

王維詩集

駱賓王詩集

薩天錫詩集

四十二章經

華嚴經

法華經

涅槃經

圓覺經

楞嚴經

楞伽經

金光明經

正法念經

賢愚經

普賢經

大日經

仁王經

雜寶藏經

大集經

大辯財天經

大黑天神經

大藏一覽

諸天傳

大智度論

祖庭事苑

義楚六帖

僧史畧

法苑珠林

佛祖統紀

佛祖通載

翻譯名義集

天台別傳

金剛界禮懺文

山菴雜錄

本草綱目

千金方

古今醫統

醫書大全

保生心鑑

壽世保元

字彙

續字彙補

會玉篇

總計六百三十二部

此餘所稱俗說書三十餘部
省其書目

編輯既成而後隨考得所補入之書二十餘部

今不服舉書號于茲觀者可考知之

肥後州隈本府

井澤十郎左衛門長秀

廣益俗說辨卷二十終

明發代野本歌

并載十兩式清門身衣

仁王今不題舉書無干茲歸答可未曉之

大經歸神類如而將韻宋將撰蘇人之書二十箱清

書六箱清六百三十二箱

宋書六箱

會王篇

書書大全

新主心錄

書世新天

本草綱目

千金方

古今醫考

俗說辨舊跋

書林 賦實風善為

想夫我朝常有書五國史等既行乎

世以故欲稽歷代之事實者就而閱之則

數千百載之陳蹤若或親睹焉然童蒙婦

女亦能讀而曉慢信俗書之誤還失舊史

之實蓋以其易解也弊習可亦歎矣越僕

不自虞誠蒐輯編膾多人以俗說本乎正

史考於實錄採其所由出辨其所謬傳記

以^テ和^ハ字^ヲ釐^ス為^ニ一^ト書^ト目^ヲ號^ス倍^ニ說^ハ辨^ハ姑^ニ便^ス之^ヲ童^ニ
穉^ニ庶^ニ幾^ハ後^ニ覽^ス士^ハ有^ラ取^ル於^ニ愚^ニ者^ハ一^ト得^テ而^テ猶^ラ忘^ル

僕^カ

訂^リ補^セ焉^ヲ

肥後州隈本府

蟠龍子井澤節長秀書



浪華心齋橋通北久太郎所

享保五庚子歲季冬穀旦

書林 加賀屋善藏板

